



ごみの減量化にどう取り組んでいくのか

**問**

幕別町ではゴミ政策の一環として、10月

を高めるためにも大切だと  
思う。

からゴミの有料化が始まり、ゴミの減量化と財政負担の軽減、そして資源化の促進を目指していくことになる。

ゴミ問題で町民が具体的に係わり取り組むことのできることは多々あると思うが、その一つとして、マイバック、ノーレジ袋運動がある。

レジ袋の処理には多額の経費が掛かっているし、また、この運動は町民のゴミ問題についての意識

北海道内でも積極的にこの運動を推進している自治体もあるが、本町においても、スーパーや商店に対する協力の呼び掛けを含め、この運動が全町的な広がりを持つように具体的な施策をもつて推進すべきだと思うが、町長の考えを伺う。

**町長**

本町では「幕別町ごみ処理基本計画」を策定し、ごみの減量化やリサイクルを進め、資源循環型の

## マイバック、ノーレジ袋運動を推進すべき

芳 滝 仁 議員

燃ごみが24%の減となったが、資源ごみについては、18.9%の増となり、年間の総排出量ではわずかに0.1%しか減少していないのが現状である。

このようなことから、ごみの減量化の一つの方策として、本年10月から家庭系のごみについて有料とさせていただくものである。

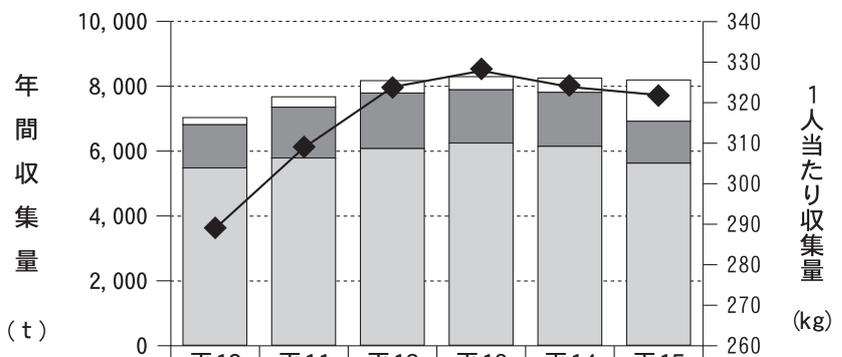
マイバック、ノーレジ袋運動は、単にごみの減量のみだけでなく思想普及の面でも大きな効果があるものと思っている。現在、町内の販売店においてもレジ袋

を求めない方にはスタンプカードの発行をするなど、サービスを提供する取り組みをしている業者もあり、マイバックを持参して買い物をしていく方も若干は見受けられるが、やはり多くの方がレジ袋を受け取っているのが現状である。

こうしたことから、ごみの減量には、ごみとなるものを持ち込まないことを一人一人が意識を持つて取り組んでいくことが、大切なことだと思われ、マイバック、ノーレジ袋運動の取り

地域社会づくりに取り組んでいるところであり、現在、生ごみの減量を図るため、コンポストや生ごみ処理機の購入の助成、さらには、ダンボールコンポストの普及に努めている。ごみの減量に係る基本的な考えとしては、ごみになるものは買わない、使わない、作らないという発生抑制に住民、事業者がそれぞれ努めていかなければならない。昨年の本町での排出量は、平成14年度と比較して可燃ごみが9%の減、不

### ゴミ収集量の推移



資源ゴミ	222	321	384	407	440	1,273
不燃ゴミ	1,332	1,567	1,713	1,641	1,667	1,294
可燃ゴミ	5,472	5,779	6,069	6,241	6,139	5,619
町民1人当たり収集量	289	309	324	328	324	322

組みは、町民のごみ処理への関心を高めるためにも必要なことだと認識している。今、いかにノーレジ袋運動を進めるか知恵を出し合うことが大事であり、消費者協会、あるいは商工会、さらには各関係機関などと連携の上、どのような取り組みをしていくことが一番良いのか、あるいは、行政に求められるものはどういふものがあるのか、これらも十分検討しながら対応していきたい。